

## 会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 1 回近江八幡市教育振興基本計画中間評価委員会
開催日時	平成 2 9 年 1 月 2 0 日（金）午後 2 : 0 0 ~ 午後 4 : 1 0
開催場所	市役所南別館 3 階 水道事業所会議室 A ・ B
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>【中間評価委員】</p> <p>◎壬生 裕子 阿加井 裕之 ○中谷 喜久男 井上 京子 加納 隆 大川 恒彦 北川 泰 大船 めぐみ</p> <p>【職務により出席したもの】</p> <p>教育長 日岡 昇 教育部長 江南 仁一郎 教育総務課 課長 北村 美栄子 課長補佐 山元 和夫 副主幹 武田 善雄 副主幹 伊崎 佐知子 学校教育課 課長補佐 森 茂次 生涯学習課 参事 明石 誠 生涯スポーツ課 課長補佐 杉谷 良彦 図書館 館長補佐 奥村 恭代 給食センター 主事 日岡 豊 文化観光課 参事 奈良 俊哉 幼児課 副主幹 深井 千恵</p>
次回開催予定日	平成 2 9 年 2 月 2 日（木） 1 5 : 0 0 ~
問い合わせ先	<p>所属名、担当者名教育委員会事務局 教育総務課 武田 伊崎</p> <p>電話番号 0748 - 36 - 5539</p> <p>メールアドレス 040200@city.omihachiman.lg.jp</p>
会議記録	別紙のとおり

担当課⇒総務課

## 1 開会

《日岡教育長挨拶》

日岡教育長 近江八幡市は平成23年度に教育振興基本計画を策定した。今年度は中間年になり、今までの成果、課題を検証すること、新たに策定し直すことと、一昨年策定の教育大綱との整合性も必要となる。委員の皆様にご意見をいただきながら、中間評価に取り組んでいきたい。委員の皆様は、非常に教育に造詣の深い方々なので、それぞれの立場からご意見をいただきたい。策定以降社会情勢の変化や諸問題があり、子どもたちの生きる力、生き抜く力をつけてくため、様々な手立てを考えていく上で、それぞれの立場からご意見をいただきたい。教育大綱は全戸配布している。子どもたちも、市民の皆さんも、保護者の皆さんも一丸となって、子どもたちの教育に取り組んでいただき、そして故郷に愛着と誇りを持っていただき、そういう教育行政を今後も進めていきたい。ご理解いただきながら、本会議を進めたい。

## 2 委員の自己紹介および委嘱

- 委員自己紹介および委嘱書等交付
- 事務局、各所属担当者 自己紹介

## 3 委員長および副委員長の選出

司会 資料1の委員会設置要綱第4条第2項によると、「委員長は、委員の互選によって定める」こと、また、同条第3項では「副委員長は、委員長の指名する者をもって充てる」ことになっているが、事務局からの提案としたい。

《異議なし》

司会 事務局からの提案とする。

委員長を壬生委員に、副委員長を中谷委員にお願いしたい。

《異議なし》

司会 異議なしで壬生委員、中谷委員、に決定した。

ここで、委員長、副委員長から一言、ご挨拶をお願いしたい。

壬生委員長 私は、教育の分野での専門家かといわれると少し違い、教育委員会に限らず、自治体の計画を作ったり、計画を評価したりという仕事を長くしてきた。今回はそういう経験を活かし、皆様の意見をしっかりまとめ、次の計画に活かしていくということが自分の役割だと思っている。各所属で、そして今までの活動の中で、お気づきの点や、こうすればいいと思っている点が、多々あると思うので、そういうところをしっかりと会議の中でお伝えいただきたい。

中谷委員 近江八幡市の教育に関わって26年うち3年間市の事務局で勉強させていただいた。最近思うことだが、教育と世の中の変化はすごくリンクしており、世の中を反映するようなことを教育の方で対応していく必要があり、常日頃これから難しくなるだろうと感じている。私も学校現場しか知らないの、教育、広い範囲での社会教育、スポーツの面については、素人の部分もあるが、子どもたちの健全育成という立場において、この会合の中

で、勉強させていただき、これからの子ども達、近江八幡市の教育を総合的に、お話できたらと思っている。今後5年間だが、文科省から新しい教育課程が告示されるので、教育がまた一つ大きな転換期を迎える5年間になるとしている。そのような国の情報も得ながら、皆様とお話できればありがたい。

## 4 報告事項

### (1) 中間評価委員会の位置づけ・役割等について

- 事務局 ■本委員会の位置づけと中間評価について説明
- ・委員会の議論の中心は近江八幡市教育振興基本計画
  - ・従来までは教育振興基本計画が、近江八幡市教育行政の最上位の位置づけ
  - ・平成23年度に策定の10年間の計画で今年度は中間年に当たり、今までの総括、振り返りをする必要がある
  - ・ただし、平成27年10月に近江八幡市教育大綱が市で策定された。したがってこの大綱ができたことにより、大綱が最上位の教育目標・理念の位置づけとなっている
  - ・中間評価にあわせ大綱との整合性の確認をし、後半5年の計画として見直していく必要がある

### (2) 全体スケジュールについて

- 事務局
- ・全体のスケジュール（事務局案）は、概ね3回の会議を予定している
  - ・1回目：概要説明
  - ・2回目：説明を踏まえた意見等の集約
  - ・3回目：総括と後期への改定素案の協議
  - ・その後、教育委員会事務局で、パブリックコメント等、市民の皆様の意見をいただく機会を経て、最終は教育委員会定例会で、新しく作る計画を諮る予定。同時に市長、並びに議会に報告し、公表となる。

## 5 議事

### 各施策中間評価について

〈各所属担当者から目標ごとに説明〉

#### 【目標1】基本的な生活習慣の育成を基調とした“近江八幡の子ども”を育みます

- 学校教育課
- 別添の補助資料を使って説明。
  - 我々は変化の激しい時代をたくましく生き抜くために、必要な知徳体、バランスのとれた力を生きる力と考えている。その基礎になるのが、基本的な生活習慣で、近江八幡市では、平成18年度から「早寝早起きあさしどう」を教育委員会全体で取り組んでいる。
  - 3年に一度、状況を分析している。子ども達、保護者にアンケートを取り、集計して、課題の分析を行い、その取り組みを進めている。
  - 早寝早起きについては、一定改善傾向にある。
  - 課題は読書、特に就学前の子ども達が保護者に読んでもらうところは減少している。

- 運動も課題。子ども達の運動量が極端に減少している。特に就学前と小学校。中学校も減少しているが、それは部活動の時間が有る程度カバーしている。
- あいさつも比較的できている。
- 朝ごはんは中学校で課題があることが分かっている。
- 今年度はアンケート結果をリーフレットにして、就学前園所、小学校、中学校の保護者に配布し、家庭で子ども達と十分話をしてもらいながら、生活改善を進めていただきたいとお願いをしている。
- 子ども達の生活習慣は、学校でも呼び掛けているが、なかなか子ども達だけでは改善できないので、保護者、地域ぐるみで取り組みをこれからも進めていきたいと考えている。

幼児課

- 就学前の現場で基本的な生活習慣は、重点を置いて取り組んでいる。
- 先ほどの学校教育課からのアンケート結果も、幼稚園現場に持ち帰って、それぞれの園で分析と取り組みを考え実施してもらっている。
- 幼児課としては、食の部分では栄養士による食育活動、読書については絵本を親子で、触れて楽しむという重点的な取り組みをしている
- 身体を動かす機会の減少や、運動能力の低下については、芝生化を進めており、それをきっかけに、運動をすることへの工夫・研究を、今後も続けていく必要がある。

## 【目標2】近江八幡の実態に即した特色のある就学前教育の充実に努めます

幼児課

- 就学前の時期、発達年齢による経験に学ぶ大きなものが有るため、発達年齢に応じた活動や、地域性を活かした活動、様々な人々との関わりが持てるような活動を実施して、子ども達が豊かな体験をできるように取り組んでいる。
- 豊かな体験では、色々な体験をすることが、幼児的なことで終わらないように、しっかりと教育課程に位置付けられたものとして、より子ども達の主体的な活動になっていく必要がある。

## 【目標3】確かな学力を育成します

学校教育課

- 基本的な生活習慣と学力とは、かなり相関関係があり、全国学力・学習状況調査でも言われていることで、基礎的な部分がないと、学力も伸びてこない。
- 学力向上には、教師の指導力の向上の部分と併せて、子ども達の生活習慣の確立、その双方向から上げていくのが良いため、「生きる力育みプラン」を作成し、実施している。
- 特に、ここ数年間は授業改善推進校として、市内の小中学校で研究校を指定し、指導改善の方策の研究や ICT 関連のタブレット PC の研究校を設置しながら、学力向上の指導方法を研究している。
- 読書活動では、特に読解力、問題解決能力を上げる読書の強みがあるため、図書司書の配置を実施している。今年度は16小中学校中、4校に図書司書が行っている。この数を増やしていき、子ども達が利用しやすい学校図書館活用、授業づくりを含めながら、子ども達の学力を高めていきたいと考えている。
- 特別支援教育については、個に応じた適切な支援をするというところで、

その困り感を無くすところにも、学力が大きく作用している。特別支援教育を学ぶこと自体は、子ども達に分かりやすい授業をすることに繋がるので、その指導力の改善にも大きなところがある。

○本市では、特別支援員をたくさん配置することによって、その困っている子に寄り添いながら、指導改善できるように努めている。

#### 【目標4】すこやかな心と体を育成します

学校教育課 ○食事の部分で食育の推進、特に望ましい食習慣を育てる、また食べることに對して感謝の気持ち、心の部分ということで、食育教室を給食センターと連携して実施している。

○体験活動は、「田んぼの子」として小学校で野菜や米を育て、栽培し食べるという活動、また、沖島に行き、自然の恵み、山の働きを学ぶ「やまのこ」がある。

○滋賀県が実施している「うみのこフローティングスクール」で、琵琶湖に出て環境の大切さを学ぶ体験をし、充実させている。

○道徳教育は地域教材、地域人材、地域の事から学んでいける道徳を充実させようとしている。

○郷土を愛する教育の推進では、教育大綱の理念のもと、本市のふるさと教育の全体計画というのを策定した。『私たちの近江八幡』という社会科の副読本を使って、近江八幡市の事を学び、総合的な学習の時間で地域に出向いたり、学校支援地域本部事業で、地域コーディネーター、地域の方を学校に入れて、地域との連携を図って、道徳で、地域人材、地域教材を活用し取り組んでいる。

○国際理解教育では、英語能力の向上で、ALT や日本人英語講師を配置している。近年外国籍の児童、生徒も増加しており、その子どもたちが困らないように、通訳や、母語の支援員を入れたり、日本語指導を入れたり、外部の人材を入れている。

○環境教育では、「やまのこ」や、「田んぼのこ」、「うみのこ」などを通して、ふるさと近江八幡に根付いた取り組みを進める中で、子ども達のすこやかな心と体を育てていきたい。

生涯学習課 ○自尊感情を高めるため、4つの中学校ごとに、重点課題を設定し取り組んできた。八幡中学校学区では、「不登校」、八幡東中学校学区では、「基本的生活習慣」、八幡西中学校では、「仲間作り」、安土中学校では、「学力の向上と人間関係」ということで、主に教職員向けに資質向上のために、研修会等を実施した。

壬生委員長 ここで4つのシートについて、質疑があれば、挙手をお願いします。

委員 『私たちの近江八幡』ですが、私も会長をしていて、昨年いただいたが、これの更新はされるのか。

学校教育課 4年に一度の更新で一昨年に改定した。

委員 この別冊の「特色あるふるさと教育の年間計画」が、八幡小学校の分が裏

表あって、かなり地域に根差した、郷土を愛する教育が推進されているが、これは何処の小中学校でもあるのか。

学校教育課 もちろん幼稚園も、こども園、小中学校、岡山小もある。今年度からまとめた。

委員長 学力のところの最大の7.2%ってどの教科か。

学校教育課 中学校の数学だったと思う。今確かなことは言えないが、ここ2年で全国との差は特に小学校でかなり埋まってきて、指導改善が進んだ。ただ、中学校では、そこにいくまでの段階が有るので、ちょっと小学校から2.3年遅れて成果になってくるのかと考えている。

委員 読書推進で、学校図書館の支援員1名と、学校司書2名で4校と説明があったが、この4校は、ずっと継続的にそこに滞在なのか、順番制なのか、実態はどうなっているか。

学校教育課 まず、本市の「子ども読書活動推進計画」には、平成27年度から、学校司書を配置するという目標があるが、学校の図書館の運営自体が、司書を活用しても、効果が上がるだけの整備がなかなかできていないという実態が有ったので、27年度は1名図書館支援員を配置し、16校全部の学校図書館を整備した。本市は全部で16校小中学校が有るので、全部に図書館司書の配置は難しいため、段階を踏もうということで、1年目には4校分の学校司書を、その次には8校分という形で数を増やしていく。一年遅れではあるが、今年から学校司書を配置し、2名入っている、2名の内1人の方が2校いっている。月火はA小学校、水木はB中学校、残りの1日は司書が配置されていない学校を巡回するという感じです。現在2名いるので、2日間学校に行っているのが、4校になる。残りの12校が1ヶ月に1回程度司書が来て、本の整理等をしている状況である。その司書の数を、来年度以降増やしていきたい。

生涯学習課 昨年度から、学校図書館のリニューアル事業を始め、昨年度は武佐小学校、今年度は北里小学校を、県の図書館から支援員を依頼し、少し分類や本が見やすいようにした。

委員 環境教育の推進が、終了となっていますが、今後やらないということか。

学校教育課 いえ、終了というよりも、「やまのこ」や「田んぼのこ」が、色んな所で関係し、全部に網羅して実施しているので、あえてその項目を上げて環境教育とするのではなくて、色んな事業の中で実施しているというのが良いということで、変えたものである。

委員 どこに移ったかというのだけ、はっきりすればいい。終わりではないと。

事務局 今後お示ししたい。資料で分かりやすくさせていただく。次視点2の説明に移る。

**【目標 1】 教員の指導力と学校の組織力向上に努め、信頼される学校づくりを目指します**

- 学校教育課
- 研修の機会は、様々な教職員研修があり、幼小中全て集まる全員研修会、市の教育研究発表大会等々もある。その他新しい教職員の初任研、2年次研修、10年次研修、今年度始めました若手教員のスキルアップ研修、5年目、6年目の教員研修、こういったものを実施している。その他、各種講座では、近江八幡市の教育的課題に対する講座を実施し、学ぶ機会を多く取り入れている。
  - 授業研究会実施による教員指導力の向上は、研究指定校を設置し、それぞれの研究テーマに基づいた研究会を実施し、指導力向上を図り、また指導助言とし、それぞれの学校に出向いて、ともに研究を行なっている。今年度特に力を入れたのが、校種間連携で、それぞれの小学校、中学校、就学前園所の、各中学校区で、違う校種の先生方も共に授業を見て学ぶことを大事に実施した。
  - 学校 ICT を有効活用し、教員の指導力向上に努めており、ICT 教育を充実している。年々小学校も中学校も、ICT を活用する時間は増えている。特に ICT 機器については、タブレットの整備を進めており、小学校 2 校、中学校 1 校で、タブレットの研究校を設置し、授業に活用している。今年度中間発表会を実施し、他の学校からもその授業を見に来て、共に学ぶことを実施した。次年度は 3 年目になるので、それぞれの小中学校、その研究校の研究発表大会を大々的に実施し、ICT 機器の活用を全市に広めていきたいと考えている。

**【目標 2】 学校、地域、家庭の連携強化を図り、子どもの成長を支えます**

- 生涯学習課
- 学校、家庭、地域の連携を主な目的としている施策で、現在近江八幡市内の全ての幼稚園、小学校、中学校に地域支援コーディネーターを配置している。これは学校支援地域本部事業の一環とし、地域コーディネーターを通じ地域のボランティアが学校に様々な支援をしている。例えば、家庭科の授業で裁縫の援助をしたり、マラソン大会の時に、見守りをお願いする形で進めている。これを来年度保育所にも何とか展開し、全ての市立の施設に導入したいと考えている。
  - 市 PTA 連合会の「伝えよう、熱い思い」、それから青少年市民育成大会の連携で、一緒に参加している。今年度、昨年度共に、それぞれ 600 人近い、または市民大会については、200 人近い方々の参加者があった。
  - 少年センターで、街頭補導、あすくるで、非行少年の立ち直り支援を目的としたプログラムを年間相当回数実施している。
  - 家庭教育支援は、子育てに不安を持つ保護者を支援しており、現在 8 つの小学校に家庭教育支援コーディネーターを配置し、子育ての不安を和らげるようなサロンや、皆で講演を聞き、話し合うというようなことをしている。また来年度以降に 1 校、2 校と増やし、最終的には 12 校の小学校全てにと思っている。
  - コミュニティスクールは、現在の近江八幡市では、学校評議委員会を実

施しているが、これを学校運営協議会を実施している学校をコミュニティスクールを導入している学校と位置づけ、来年度、市内の1つの小学校で導入する方向で進んでいる。

- 学校教育課 ○家庭教育を支援する体制作りは、家庭学習の重要性を保護者にも周知し、各学校に家庭学習の手引きを配布し働きかけをしている。このリーフレットは、去年の4月に小学校だけだが、全家庭に配布した。基本的な生活習慣の大切さ、家庭学習の方法について記載した。また携帯・スマートフォンの問題が全国的にも大きな問題となっているということで、就学前、小学校、中学校の全保護者に、リーフレットを配布した。中身には、基本的な生活習慣の所で、課題、使用率、所持率、使いすぎによる学力への大きな影響というようなものを、グラフや文章で説明をし、約束事を是非とも、家庭で作ってほしいということをお願いしている。その効果もあるのか、調査の結果、半数以上のご家庭が、ルールが有ることがわかった。今後もリーフレットを配布していきたい。このように、学校、家庭、地域も、一体となって、取り組みを進めている。

### 【目標3】子どもの教育環境の整備、充実を図ります

- 教育総務課 ○子ども達の学力向上、安全、安心して安全な学校生活を送れる教育環境づくりを目指し、取り組みを行っている。
- 電子黒板の継続的な整備では、平成22年の整備により、概ね普通教室への配備はできたが、その後老朽化により、画面にスジが入るなどの不具合が多数出ている。次の整備のために、関係課と連携をし、取り組む必要があると考えている。
  - 学校の耐震化の推進は、桐原小学校の完成により、耐震化が必要な学校は、岡山小学校のみになり、現在29年度の工事着手に向けて、取り組みを進めている。
  - 特色ある学校作りに資する教育環境整備は、中学校のトイレ改修は、全て完了し、現在小学校の方で、桐原東、北里、八幡が完了し、残りの学校の改修の方を進めている。整備に当たっては、ワークショップ等、子ども達の意見を取り入れた設計を行い、また改築等は、地元の意見等を聞き入れ、特色のある設計に反映している。
  - 通学区域の弾力化の拡充は、学校規模の適正化を図るため、また通学できる選択肢を増やすことを目的とし、本計画が始まり24年度から本格実施をしている。制度をはじめ、一定の成果、利用者は見られるものの、学校規模の適正化までは進んでいないという状況である。成果の方に上がっている数字は、今後は、現在モデル事業の推進等で、拡充を目指している。
- 学校教育課 ○小中一貫校の試行は、5年前の計画に上がっているが、小中一貫校というのは、試行したら実施になるが、その議論すらできていない状況である。まずは議論から始めていくべきということで、後期へは、議論としていきたいと考える。
- 国では、義務教育学校あるいは小中一貫型というのが進んでいるが、近江八幡市は小学校とコミセンが一体となった防災を含めた形で整備を

している中で、子ども達の数も減少の状況の中で、それが本当に良いのかということも含めて議論をしていきたいと考えている。

○少人数学級の拡充は、通常40人学級が、35人以下にすることを少人数学級と言うが、これは教員の配置を県がきめるものなので、市が自由にできない。計画に少人数学級を拡充するということを書くこと自体、市でできることではないこと、また実際も市の施策で少人数学級になっており、ここでは終了という形でさせていただいた。

幼児課 ○特色ある学校作りに資する教育環境整備というところで、施設の徹底した維持管理を行い、園庭の芝生化を進め、維持管理の徹底を行っている  
○アレルギーの対応が必要な子どもや、色んな配慮に対応する必要がある、また特別支援、特別な配慮を要する子どもが年々増えている中で個に対応する職員の確保に努めているが、職員の確保という課題も出て、教員免許更新の制度改正により採用できる対象も減ってきており苦慮している。

給食センター○市内の、幼稚園、小学校、中学校への完全給食の実施を目標に、新しい給食センターの整備を行った。現在の近江八幡市は、平成22年に旧近江八幡市と安土町が合併したが、旧近江八幡市については、合併時点は幼稚園、中学校については、給食の提供が実施されていなかった。そこで、平成24年から25年にかけて、新たな給食センターの整備を行い、平成25年の2学期から、センターでの給食の調理を開始した。これにより、今まで給食の提供がされていなかった幼稚園、中学校についても、給食の提供が開始され、近江八幡市内の幼稚園、小学校、中学校への完全給食の実施というものが達成されたものである。

委員長 ここで、質問が有ればお願いしたい。

委員 教職員の研修の充実の考察で、ベテラン教員が持っている教育上のノウハウや学校文化を、若手・中堅の教員に引き継いでいくことが困難になってきたということで、研修を充実させていくことはいいが、それなら目標は100%にし、全員の方がそういうノウハウを持っていくようにしていくのが良いのではないかと思うが。この研修は夏休み中にされるのか。

学校教育課 全員研修会は夏休みに実施する。

委員 この目標90%というのは。

学校教育課 これは、実は、市の研修日に、ちょうど県の研修や、免許更新があり、実質は100%に近いが、その市の全員研修会に出られない教員もいる。

委員 その実績が83%ということか。

学校教育課 そうである。

委員 教育総務課の残りの小学校のトイレ改修は、残りは何校か。何校と入れる

べきである。成果が100ではないはず。残りが有るのでは。

教育総務課長 残りは、武佐小、老蘇小、馬淵小、安土小、沖島小。

委員長 時間の関係もあるので、とりあえず、次の説明に移りたい。視点3に入る。

**【目標1】市民学習機会の提供と、学習の場の充実及び提供、成果が活かせる生涯学習社会創出に努めます**

- 生涯学習課
- 市民大学講座と中央公民館講座を10回、それぞれ10箇所のコミュニティセンターの方で実施した。地域課題別講座はまちづくり協議会に依頼し、各コミュニティセンターで、1年間1回実施をお願いした。実施済、今後実施予定のところもあるが今年度はすべてのコミュニティセンターでの実施はできなかった。
  - 社会教育関連団体との連携は、市のPTA連合会の理事会等に参加しながら、連携をしてきた。特に、今年度はあいさつ運動で、市民総あいさつ運動の大きな看板を持ち、阿加井会長に、「伝えよう熱い思い」の中で、訴えていただいた。
  - 今年度は、2学期、3学期はじめのあいさつ運動にそれぞれ600人を超える皆様のご協力を得た。同様に、愛の学校訪問、青少年市民育成会の参加者が増加した。
  - その他、今年度はガールスカウトの活動を市の広報で紹介したり、市の子ども育成連合会のキャンプ等に参加した。
  - 公民館の役割等の位置づけは、本市には、中央公民館の建物が無い中で難しい点もあるが、来年度は複数の女性の対談を男女共同参画の事を踏まえて講座を実施する予定である。
  - 市民の方々からの要望を集約したアンケートは、市のホームページに掲載している。
  - 現在市の学校に、支援していただいているボランティアの総数は、2,000人を超えており、たくさんの方に、支援をいただいている。

- 学校教育課
- 地域で支えあう、家庭、学校支援の取り組みは、いじめ、不登校に対する取り組みを上げた。いじめについては、それぞれ学校は基本方針を作って取り組んでおり、できるだけ、積極的に認知しているが、全国、県と比較してもいじめは近江八幡市は重大事態もなく少ない傾向にある。ただ、不登校の方は、全国、県と比較しても多いということがあり、それが特に子ども達の家での教育力が大きく、地域ぐるみで支えていただけのような取り組みを推進していきたいと考えている。
  - その他スクールソーシャルワーカー等の配置や、相談活動として、教育相談活動、適応指導教室を設置しながら、不登校でなかなか学校に行けない子ども達の居場所作りもできるように支援している。

**【目標2】誰もが気軽に、スポーツ、レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます**

生涯スポーツ課○体育協会や、スポーツ推進員、また各学区の体育振興会、体育協会に

加入している各専門競技部、スポーツ少年団等々の、各種団体の協力を得ながら、スポーツの機会の提供や、スポーツを行う方々の支援等について取り組んでいる。

- 住民主体で運営する地域スポーツクラブの設立では、本市では、平成26年に総合型地域スポーツクラブが立ち上がっている。様々な形があるが、本市では、各学区体育振興会を中心に、総合的に組織しているのが本市における総合型のスポーツクラブである。各学区単位で、体育振興会を中心に年間を通してスポーツフェスティバルや、スポーツ大会のイベント等を開催しており、現在10学区と沖島の計11支部において、全ての地域で、独自に事業に取り組んでいただいている。
- スポーツを通じた健康づくりと人々との交流は、各種のスポーツ教室や、各種のスポーツ大会を開催している。競技団体や外部コーチ等の協力を得ながら、講師の確保に努めており、マンネリ化しないように毎年工夫を凝らせながら、新たな種目を取り入れながら、現在18から20教室を開催している。なお、目標と成果で、延べ人数ということで、成果指数を設定しているが、あまり好ましくないと考えており、後日また何らかの目標設定に変更したいと考えている。
- 市民が一体となって、街ぐるみで取り組むスポーツ事業の展開は、体育協会や市内の各種団体の協力のもと、市民が誰もが参加できるような水郷の里マラソンや、チームを組んで出場の学区対抗なども含めた駅伝大会などを開催している。これについても、市民の参加指数について、参加指数の1%を基準にして、100%以上を目指して、募集をかけている。
- 施設整備や情報提供などスポーツをする人の支援は、スポーツ施設も老朽化しており、限られた財源の中利用者の安全確保を行うため、修繕等を随時行い、安全かつ安心に施設が利用できるように、取り組んでいる。
- スポーツをする方に、ZTV や広報などのメディアを使いながら、毎月情報提供を行っている。ただ、現在、施設の空き状況などの情報提供ができていないので、これについては一つの課題と考える。今後何らかの方法で、提供していきたいと考えている。

- 学校教育課 ○小学校、中学校では、全国体育運動能力調査・運動習慣調査を実施している。中学校は、近江八幡市の子どもたちは、運動部活動に在籍している子が多いので、中学校は運動の量は、全国・県と比較しても多い。ただ小学校は、どうしても小学校女子の方で、運動量が若干少ないという結果である。
- 例年の傾向も踏まえて、今年度から「すこやかタイム」とし、子ども達が運動に触れ合う取り組みを各小学校で実施している。こうした取り組みを推進しながら、運動に触れ合える時間確保を考えている。

### 【目標3】誰でも何でも聞ける、調べられる図書館を目指します

- 図書館 ○まず、利用者一人一人に役立つ図書館づくりでは、目標の変更を考えている。貸出は、年々増加している。それでも、人口82,180人(4月1日現在)の人口で割ると、市民一人当たりの貸出冊数は6.6冊と

なる。目標では平成28年度には7.2冊以上となっているが、今年度は昨年より貸出が落ちているというのが現状である。県内の図書館の今年度の4月から8月の県立図書館の統計の発表で、個人貸出冊数が前年を上回っているところは、19館中6館。市立図書館では、守山と甲賀市のみ若干増加、2館は前年度と同じ、その他の市は若干落ちている。八幡も前年度比98%となっております。この状況の中で、今年度7.2冊以上、平成33年度についても8.0冊は難しいと考え、指標の変更を「前年度より貸出冊数を増加させる」に変えたいと考えている。

- 貸出冊数は当然のことながら、図書費と密接な関係が有る。「一人一人役立つ図書館」として、市民の知りたいという要求に応えるレファレンスサービス、市民の読みたいという要求に応えるリクエストサービスについては、ほぼ100%対応している。平成27年度から、国立国会図書館の入手困難な200万冊を、近江八幡の図書館で見ることができる、閲覧複写サービスを実施した。11件の閲覧利用が有り、13件の複写申し込みがあった。
- 自宅に居ながらパソコンで予約し、近くのコミセンまで本を届けて、貸出・返却ができる配送サービスも年々増加している。
- 資料の充実と蔵書管理の徹底では、資料の充実には、十分な図書費が不可欠である。図書費の推移は県内図書館の統計は、当市が資料費28年度、1,643万円。近隣の野洲では1,830万円、彦根が2,700万円、東近江は8館で5,480万円であった。図書費については、徐々に増額してもらえるように、担当課に粘り強く交渉を続けているところである
- 購入冊数は、平成28年度4月から9月まで購入した本の貸出率を調べたところ、98.3%で、選書が有効であると思っている。こうした新しい本ばかりではなく、利用者にも古い本、良い本を手にとっていただく目的で、昨年度から評価したのは、コーナーづくりの充実で、昨年度より約5倍近くコーナーからの貸出が増えた。
- 図書館になかなか来ていただけない方についても、ホームページでコーナーの取り組みを見ていただき、「図書館って楽しい所だ」と思ってもらえるような工夫をしている。
- 蔵書管理については、年に1回蔵書点検をしている。ここに不明本として上げているのは、蔵書点検後の不明という形で出てきた本の数で、この不明本を0にするには、ICタグを導入して、ゲートを付けた徹底的な管理をするのが一番良いが、莫大な予算が必要なため今は地道な職員の巡回や、こまめな督促を行うということを徹底している。
- 利用者サービスの向上についてはブックスタート事業が、ローカルマニフェストでもあり、今年度から利用カードをその場で作成する試みを行った。また読書ダイアリーを手渡して、図書館への橋渡しを行っている。結果前年度に比べて、0歳から3歳児の貸し出しは約1.5倍、登録者数は9.3倍となった。
- 図書館主催のお話会は、おはなしメリーゴーランド、安土では絵本の時間として0から2歳対象のお話会を行っており、参加者は年々増加している。3歳以上から小学生は、お話し研究会のお話会や、安土童話クラブのお話会に参加してもらえるように、子どもが絵本やお話に触れる機会が広がるように、読書環境を整えていきたいと考えている。
- 本来図書館の目的は、その人にとってかけがえのない一冊になる本との出

会を提供することが、図書館の仕事だと思っている。そうした目的のためのコーナー作りや、司書へのお尋ね、本にポップを付けたり、その一冊を輝かせるような努力を職員でしているが、指標としては、貸出冊数となってしまうところが大きい。貸出冊数は、やはり資料費によるところも大きいことは否めない。ただ、司書の努力以外に駐車場の確保等も必要であり、今後駐車場の件や、図書館に行きたくても行けない人のために、やはり移動図書館車が必要である。

- 今年度小学校別、生徒一人当たりの貸出冊数を出すと、やはり一番近くの八幡小学校が17.67冊、岡山小学校が22.25冊、一番遠い武佐小学校が1.94冊。やはり遠隔地の、図書館から遠い学区の子ども達をどうするかが、今後の課題となってきている。

委員長 何か確認したいことが有れば、挙手をお願いします。

委員 「地域課題と学習講座」は、具体的にどんな内容の講座をされたか、いくつかで良いので教えてほしい。

生涯学習課 それぞれの地域が抱えている、高齢者の問題や、一番多かったのが少子化についてということが多かった。

委員 少子化に関してどのようなことをしたのか。

生涯学習課 例えば、島のコミュニティセンターでは、島の方に移住してくるようなことを踏まえて、少し取り組んだ。

委員長 他に質問がなければ次の視点4の説明をお願いします。

### 【目標1】近江八幡の自然と歴史を大切に、文化遺産の保存・活用・継承を図ります

文化観光課 ○文化的景観の保全は、重要文化的景観として、西の湖を中心とした地域を、景観上重要な地域ということで、選定を行っており、この地域の保全、景観の保全を中心に事業を行っている。また、この地域は、旧来安土との合併が行われる前に選定がされたもので、合併後の安土の地域に、景観法による景観計画ができたことにより拡大する事業を進めている。よって目標の所に景観の保全に選定域の拡大を追加し事業を行っている。

○市史編纂等を進め、近江八幡の歴史の保存・活用は、近江八幡市の歴史を編纂しており、近江八幡市全体の歴史を地域の皆様に知っていただくということで、全9巻の刊行を目標にしている。ただ近現代史が非常に膨大な数に上っており、目標の変更を行おうとしている。これは刊行年月日を30年で最終としたものを、31年とし、1年だけ変更をお願いし、刊行計画を順次進めている。

○伝統文化の継承で、近江八幡の様々な伝統文化の中でも火祭りを中心とした3つの祭りが、国選択無形文化財になっており、近年国から、文化遺産を活かした地域活性化事業という新しい事業が出た。この部分の周知を、各伝統文化を中心とした事業を行っている方々に周知し、平成 23

年からこれまでの間に通じる事業を、地域の皆様が中心となって行っていただいている。ただ、この周知は、文化遺産を活かした事業自体の周知がまだまだできていないと考えており、今後さらに進め、各学区で少なくとも1つ、2つ以上の伝統文化の保存事業を行っていただくため、来年度から集中的に周知活動を行うことを考えている。

## 【目標2】近江八幡市の自然と歴史・文化に親しむ機会を充実させ、地域文化育成の環境づくり

文化観光課 ○文化財の講座、歴史散歩、市民文化祭、美術展覧会、演奏会等を開催し、親しむ機会の充実では、非常に伝統があり長い間続けられている美術展覧会、文化祭、音楽祭を開催させていただいている。ただ、近年の大きな課題があり、若年層として高校生から概ね20歳、25歳ぐらいの方の出展、又は参加が少なく、各学校に周知のお願いをし、ポスター等の掲示をしたり、また行政放送で呼びかけをしているが、実情はなかなか増えていない。

○子どもの文化芸術活動の奨励は、平成23年から、子どもの文化芸術賞を設け、子ども達の文化芸術に対しての表彰を行っている。また、お出かけ演奏会として、市内の小学校6年生対象の事業で、各学校に協力依頼をさせていただき、要請が有った所に、プロの演奏家3名を含みまして、各学校で講演をしている。この事業は、非常に特色のある、全国でも珍しい事業であるので、毎年各小学校の5・6年生の授業で実施していこうと考えているが、まだまだ全校で毎年行われておらず、それを含めて考えているところである。

学校教育課 ○子どもの文化芸術というところで、学校教育課では、青少年美術展を開催し、1,300人を超える園児、児童、子ども達の作品を、小中の子ども達も含めてたくさんの方が鑑賞している。また学校によっては茶道を実施したり和太鼓に取り組んでおり、その経費の一部を学校づくり支援事業ということで、補助をしている。

○自然観察会、自然ウォークと自然に親しむ機会の充実では、環境教育でも交わってくる部分であり、「田んぼのこ」、「やまのこ」、「うみのこフローティングスクール」のことについて記載している。

委員長 全体を通して、何かご確認したいことがあれば挙手をお願いします。

委員 この教育基本計画の中に、スポーツに関して言えば、運動については、学校は学校の活動、中学校は部活動で取り組んでいる。しかし競技スポーツの部分が、この表現の中に何にもないのが残念と思った。というのは2020年に東京オリンピック、24年に国体がある。やはり、乾友紀子さんのような人が近江八幡市出身である、そういう部分は大事だし、競技スポーツも頑張ってもらおう、子どもや市民を育てるためには、その計画の中に、そういう競技的な部分、それが活力を生むものとか、そういったものが載っていないので、違う部分が有るのかと思うが、比較するものが無いので評価の仕様が無い。

- 委員長 現行の計画に載っていないことでも、新たに始める方が良い取組が有れば、提案いただけるとよい。
- 部長 今ご指摘いただきました視点も、特に今回中間見直しをさせていただくに際し、非常に重要な点かなと私も考えているので、5年たつと、そういう今後の展開も見えてくる部分もあるので、この機会に新たな柱、あるいは目標として追加していけるものについては、ご意見をいただく中で、充実をしていきたいと考えているので、忌憚ないご意見をお願いしたい。
- 委員長 他にご質問はないか。
- 委員 各項目別で色々と説明があり、理解はするが、関連性がこのシートからは、個々にしっかり見えてこない。例えば、読書にしても、ブックスタートから始まって、図書館としてはこうしていると。しかしブックスタートというのは、地域、家庭全部入ってくるし、そういう所の関連、また今本の貸し出し冊数は、県全体が減っていると、減っている原因が何であるかということも含めての考察もなかった。またその読書が図書館だけの問題でもある、学校教育課でも読解力など問題がある。幼稚園も言っておられた。それも全部関連的なものがシートで分からないと、個々にやっていたのでは、個々ではそれはそうとなっても全体はわからない。やはり子どものスポーツに関してもそうだが、何に関しても子どもに関する部分であれば、生涯学習も含めて、地域も全部関連的なものが見えてくるようにしていかないと、いろんな問題が見えてこない、全体を見て思った。
- 委員長 貴重な指摘である。どのように対応するかを宿題にしたい。
- 事務局 後日こちらの方で検討させていただいて、全体がわかるものを提示したい。
- 委員長 他にご質問は有るか。
- 委員 景観の保全で、Facebook で八幡山城の石垣保存会のようなものが有り、石垣の周りの例えば竹林伐採ということを実際されているというのを見たことがある。そういったことも当然景観保全につながると思うし、私の子どもは小学校5年生だが、八幡山に城があったということ自体を知らないし、そういう方がたくさんおられると思う。八幡堀が何のためにあるのか、お城があって、その下が整備されて、城下町が整備されているということも、何故こうなっているのか知らない子どもも結構多いと思うので、見直しをしていただきたいと思います。
- 学校教育課 ふるさと学習を充実させようということで、実は岡山小学校でも、八幡堀を学ぶ授業もある。今日は八幡小学校の部分だけ資料としてあるが、中学校でも八幡堀について学び、八幡山城についても勉強する。そういった、近江八幡の事を知る機会を充実させたいと考えている。
- 委員長 他にご意見はあるか。

委員 なし

委員長 今日貴重なご意見をありがとうございました。次回は、本日の説明内容を踏まえ、この中間評価シートの施策について、皆様の意見を聞いていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

## 6 閉会

## 7 今後の予定

第2回委員会 平成29年2月 2日(木) 午後3時

第3回委員会 平成29年2月20日(月) 午後5時